

### 児童虐待防止対策

小島 智子 議員  
(新政みえ/桑名市・桑名郡選出)



#### 問

県では、昨年、虐待に失われるという事例が2件発生しました。

平成22年4月にも重篤な虐待事例が発生しており、平成23年には児童相談所の組織強化などの対策が実施されましたが、その取り組みの評価について伺います。また、昨年の死亡事例を検証する中で新たな対策が打ち出されましたが、最も大切に考えたことは何ですか。



#### 答

平成22年の重篤事例を受けた職員の増員などの対応は必要なものでしたが、児童虐待相談件数はその後も増加し、さらなる対応が必要となっています。

昨年の死亡事例についての検証会議での議論を踏まえ、児童相談所の確なリスク判断や母子保健分野との連携を強化し、県全体の児童虐待防止体制の強化に取り組めます。

○その他の質問事項  
社会的養護の推進 ほか

### 動物愛護管理センターの設置

服部 富男 議員  
(自民みらい/三重郡選出)



#### 問

動物愛護の観点から、犬猫殺処分ゼロを目指した動物愛護管理センターの設置が望まれています。

三重県小動物施設管理公社は、主に野犬の捕獲、犬猫の殺処分業務を前提とした施設であり、県民への啓発を行うための研修室や譲渡対象動物を長期間管理できる設備や診療設備などが不足しています。動物愛護管理センターの設置について知事の考えを伺います。

#### 答

三重県動物愛護管理センターは、人と動物が安全・快適に共生できる社会の実現を目指す上で中核的な役割が期待されますが、老朽化が進み施設自体が狭いため、十分な機能を持たせない状況です。センター機能の充実については、三重県動物愛護管理推進計画の改訂作業を行う中で具体的に検討していきたいと考えます。



○北勢地域産産をどのように守るのか? ほか

### 防災意識の向上に向けた「自助」の取り組み

前田 剛志 議員  
(新政みえ/津市選出)



#### 問

昨年の防災に関する県民意識調査結果では、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあり、自助の取り組みは緩やかな伸びにとどまっています。

防災意識の低下を防止するためには、家具固定や災害用個人備蓄品「白い小箱」の促進など、自助への行動に繋がる対策として、自主防災組織でのモデル事業などに取り組む必要があると考えますが、いかがですか。



災害用個人備蓄品「白い小箱」

#### 答

災害から生命、財産を守るためには「自助」が基本であり、県民自らが行動していくことが重要と考えます。県では、自助意識を向上させるため、一人ひとりの津波避難計画である「MYまっぷらん」の活用による地域の津波避難計画づくりにより、市町と共に取り組んでいくこととしており、今後も防災に向けた「自助」の意識が高まるような事業を進めていきます。

○観光振興に向けて ほか

### JR名松線を活用した地域振興

青木 謙順 議員  
(自民みらい/津市選出)



#### 問

平成21年の台風18号で被害を受けたJR名松線の復旧対策工事は、今後3年間で完成する予定となっていますが、運行再開後の地域振興に関する取り組みについては、具体的な動きが見えてきませんか。

運行再開後の名松線を活用した地域の振興策について、多様な主体による協議会の設立も含め、どのように取り組まれているのか、お聞かせください。

#### 答

名松線が一日でも早く運行再開できるように、引き続きJR東海や津市と復旧対策事業に取り組むとともに、運行再開後の利用促進や地域の活性化・振興策について、現在、津市が設立を検討している協議会の中で議論し、取り組んでいきたいと考えています。



JR名松線関連復旧対策事業

○台湾と三重県の絆を未来へつないでいくために ほか